

とやまっ子みらいプラン 知事とのランチトークでの主な意見

日時：令和元年9月7日

場所：高周波文化ホール2階 視聴覚室

※とやまっ子みらいフェスタ in いみずに併せて実施

参加者：未就学児を持つ親子13組

○主なご意見

1. 1人目の出産と子育てに関して、よかったこと、大変だったこと

① よかったこと

- ・ママ同志の関わりが増え、自分自身が学べることが多くなった。
- ・子どもの笑顔、子どもの寝顔、子どもの成長に喜びを感じる
- ・落ち込んでいるときに笑いかけてくれる。

② 大変だったこと

- ・理想と現実のギャップに悩んだ。どれが正解なのかわからなかった。固定概念を外して取り込めばよかったと後悔。
- ・ワンオペ育児。夫の協力が得られない。
- ・夜の授乳で寝られない。泣き止まないときの対応。洗濯や家事ができない。
- ・妻が家事・育児をすることが当たり前と思われていることがつらい。
熱を出した時など、休むのは母親という意識が社会全体にある。
- ・1人になれる時間がない。ずっと泣いている子どもと二人きりの時間がつらかった。
- ・1か月健診まで外に出られず、買い物にも行けない状況。孤独を感じたし、家事を誰かに手伝ってもらえず、つらかった。
- ・2人目の出産のときに、上の子を退園させられた。

2. どんな支援があれば、もう1人子どもが欲しいと思うか。

- ・4月入所でない保育園に入れない。途中入所を可能にしてほしい。
- ・同時入所でない、0～2歳児の保育料の軽減が受けられないのがネック。
- ・富山市のまちなか総合ケアセンターのような施設が県内にもっとできるとよい。また上の子どもと一緒に預かってもらえるとありがたい。
- ・特定不妊治療に至る前の不妊治療への助成があるとよい。(お金がかかりすぎる。)
- ・情報が多く、固定概念にとらわれ、できない自分を責めるなど母親としての罪悪感を感じるママも多いので、助産師さんなど専門家に「無理しなくて大丈夫」などのアドバイスを気軽に受けれる場があってほしい。
- ・パパ同志で交流できる場所。男性同士もこのような形で話し合ってもらいたい。
- ・気軽に子どもを預けることができる場所(一時保育はどこも満員で断られる。)
- ・子どもが思いっきり遊べる公園や雨の日も遊べる場所が増えるとよい。
- ・家事代行サービスや子どもの送迎サービスが気軽に使えるように支援があるとよい。
- ・放課後児童クラブの開設時間が18時半のクラブが増えるとよい。

- ・病児病後児保育の手続きが煩雑。空き情報などがすぐわかり、預けやすいシステムにしてほしい。
- ・職場内での「お互いさま」の意識付け。育休があけてすぐに二人目は気まずい雰囲気がある。
- ・子ども関係の窓口の一本化。情報の整理、浸透（せっかく良い施策・サービスがあっても知られていない。）
- ・障害児が増えている。医療的ケア児の預け先がない。保育所や学校への訪問看護師の派遣の国制度を活用し、受入側と親の負担を軽減してほしい。1人目が医療的ケア児であると、世話が大変で、なかなか二人目が考えられないと聞く。

3. 男性の家事・育児参加の促進、男性の育児休業の取得促進

① 男性の育児休業の促進

〔共働き〕

- ・男性の意識を変えるには最初が肝心。産後1～2週間の間に、妻と一緒に育児を体験することが大事。
- ・育休は女性の特権にしたいという気持ちもある。義務化より、男性の意識を変えることが大事。意識がない人が育休をとってもただ休むだけになり意味がない。

〔専業主婦・パートアルバイト〕

- ・男性に育休を取ってほしいとは思わない。
- ・夫の食事の準備も加わると思うと、負担の方が増える。家事・育児の知識がない夫がそばにいても負担。

② 男性の家事・育児参加の促進

- ・夫には、19時までに帰宅するように言っているので、仕事をだらだらせずに切り上げて帰ってきてくれる。夫の教育を頑張った。
- ・家事・育児をしてこなかった上司たちの意識改革は難しい。今の世代のパパたちが上司になったとき、部下のフォローができるような意識づけを今から浸透させてほしい。
- ・すべてママが準備した状態にしないとパパはできない。（ゴミ出しの場合は、各部屋からごみを集めてきて玄関に置いておく場合はやってくれる。）
- ・各家庭によっての考え方は違うので、何をやってほしいか、自分がどう思っているかを伝えて話し合うことが大切なのではないか。辛いときは伝えるべき。
- ・夫の実家の母が、すべて家事をしており、その姿を見て育った夫は何もしないのが普通だと思っている。

4. 結婚支援について

- ・親が無理に結婚しなくてもよい至れり尽くせりな環境を作っているのが問題。
- ・世話焼きの仲人は必要。
- ・意外とマッチングアプリで出会っている友人も多い。
- ・障害者の結婚のニーズへの対応についても考えてほしい。